



小松ウオール工業株式会社 | 東証プライム 7949

2026年3月期第2四半期 決算概要説明

2025年11月26日

投資家の皆様、こんにちは。小松ウオール工業 代表取締役社長の加納です。

本日は、当社の2026年3月期第2四半期 決算概要説明の動画配信をご視聴いただき、誠にありがとうございます。

■ 事業概要	2
■ 2026年3月期2Q 決算概要	8
■ 2026年3月期 業績予想	15
■ Appendix	21

本日、目次としまして、事業概要、2026年3月期第2四半期決算概要、2026年3月期業績予想の順で、お話をさせていただきます。

ご質問ですが、チャットで随時受け付けております。説明の後に回答をさせていただきますと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、説明を始めます。

2026年3月期第2四半期 決算概要説明

事業概要

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

2

事業概要です。

会社概要

小松ウォール

社 名	小松ウォール工業株式会社
代表取締役社長	加納 慎也
設 立	1968年1月
上 場 市 場	東証 プライム (7949)
事 業 内 容	可動間仕切、固定間仕切、トイレブース、移動間仕切、ロー間仕切の製造、設計、販売、施工等
売 上 高	446億円 (2025年3月末)
従 業 員 数	1,399名 (2025年3月末)
本 社	石川県小松市工業団地1丁目72番地
営 業 拠 点	全国54支店 (2025年3月末)

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

3

小松ウォール工業株式会社ですが、東証のプライム市場に上場しています。

事業内容としまして、可動間仕切、固定間仕切、トイレブース、移動間仕切、ロー間仕切といった、間仕切の製造、設計、販売、施工をしている企業になります。

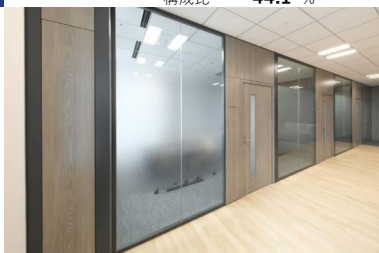
前期末で売上高は446億円、従業員数は1,399名という規模の企業になります。

主要製品 売上高構成比

小松ウオール

可動間仕切

売上高 19,661 百万円
構成比 44.1 %



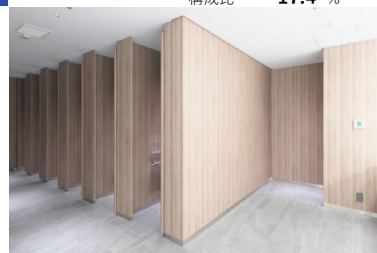
固定間仕切

売上高 9,398 百万円
構成比 21.1 %



トイレブース

売上高 7,753 百万円
構成比 17.4 %



移動間仕切

売上高 6,012 百万円
構成比 13.5 %



ロー間仕切

売上高 609 百万円
構成比 1.4 %



売上高

44,616

百万円
(2025年3月期)

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

4

当社の主要製品をご紹介します。

左上から、可動間仕切。主に、オフィスで使われるスチールパーティションというものを指しています。

固定間仕切。病院や老人ホームで使われる建具になります。

トイレブース。トイレの大便器周りのパネルです。

移動間仕切。オフィスで使われるスライディングウォールから、ホテルの宴会場やコンベンションホールで使われる背の高いものまで対応しています。

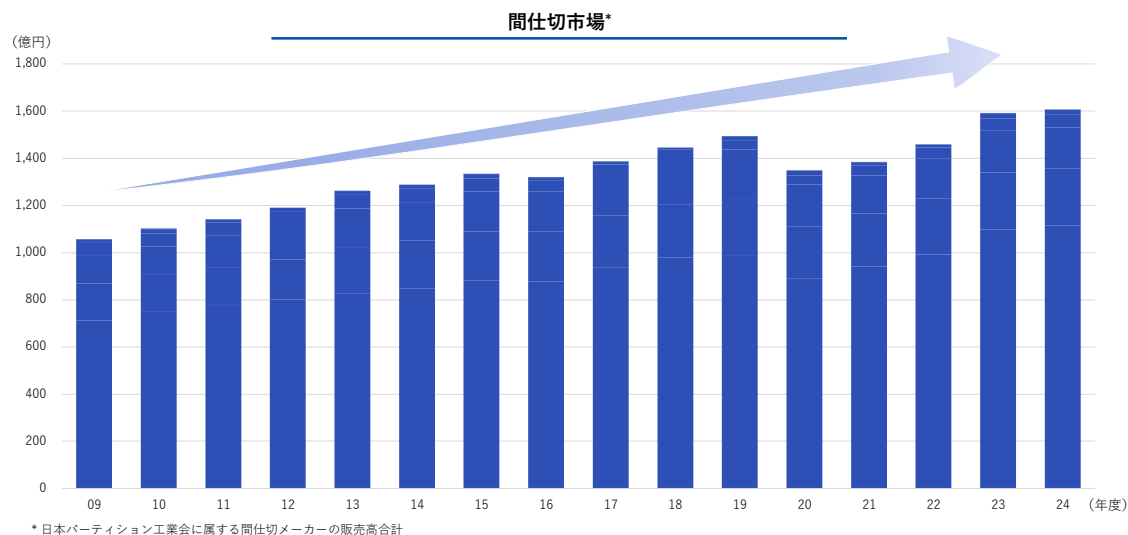
ロー間仕切。背の低いパーティションも作っています。

市場環境

小松ウオール

■ 2020年度のコロナ禍による減少後は着実に回復、2024年度は0.9%増の1,606億円の販売高となり過去最高の販売高

■ 2024年もオフィスビルの竣工は減少したと推定されるが、リニューアルの増加で間仕切市場は好調



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

5

当社が所属しております間仕切市場、その規模についてお話をさせていただきます。

こちら、日本パーティション工業会に所属する間仕切メーカー10社の販売高合計、その近年の推移を表したグラフになります。

2019年にかけて、再開発の案件や、東京オリンピックの関連施設で大変需要が強く、右肩上がりという状況でした。

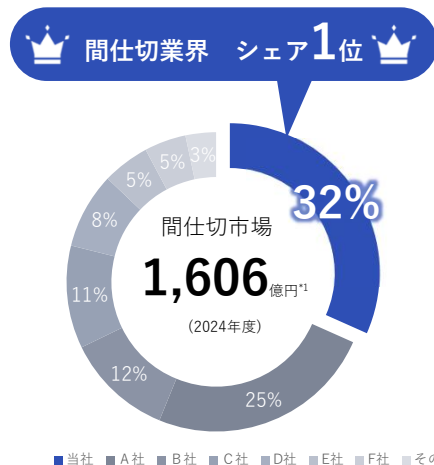
2020年、コロナ禍で下がってしまいましたが、その後はコロナ明けと共にですね、オフィスのリニューアル需要が強く、工事が増えていた関係ですとか、再開発の案件も再び盛り上がっているということもあって、進捗している格好です。

2024年度で、1,606億円の市場になります。

当社のポジション

小松ウオール

■ 2024年度の間仕切市場は1,606億円、当社のシェアは業界トップの31.6%（前年度は31.0%）で前年度比0.6ポイント上昇、市場規模の大きい可動間仕切に加えて、移動間仕切、トイレブースでトップシェア



可動間仕切	30.3%	シェア1位
(前年度 28.6%)		
移動間仕切	38.8%	シェア1位
(前年度 38.1%)		
トイレブース	36.1%	シェア1位
(前年度 37.1%)		
学校間仕切	14.9%	シェア4位
(前年度 16.8%)		
壁面化粧パネル	32.3%	シェア2位
(前年度 53.6%)		



* 当社調べ

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

6

その間仕切市場の中で、当社は32%のシェアを持っており、業界第1位のメーカーになります。

オーダーメイド品を短納期で、全国に供給できる体制



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

7

当社の強みをご紹介します。

オーダーメイド品を短納期で、全国に供給できる体制と捉えています。

バリューチェーンを一貫して行っていますけれども、各プロセスごとにお話をさせていただきますと、まず営業においては、全国に54の営業拠点がございます。こちらによって、地域密着で人脈形成するとともに、建築現場ごとに直接お伺いすることができまので、工程管理や仕様の変更など、きめ細やかな対応をすることができています。

設計と製造においては、原則として、オーダーメイド品を受注生産で作るという大前提がありますので、製作図の運用や、工場のレイアウト、それに即した内容となっています。

施工とサービスにおいては、全国に14のサービスセンターがありまして、当社の社員の取り付け作業員、あるいは、専門のサプライヤーの取り付け作業員を配置しています。こちらによって、納入後の定期点検や改修工事も、積極的に対応することができています。

以上をもって、オーダーメイド品を短納期で、全国に供給できる体制という、当社の強みを実現することができています。

2026年3月期第2四半期 決算概要説明

2026年3月期2Q 決算概要

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

8

2026年3月期第2四半期 決算概要についてお話をさせていただきます。

決算概要

小松ウオール

- オフィス向けが引き続き好調、学校や文化施設向けも増収となり、売上高は4.9%増収、ほぼ期初計画通りに着地
- 高付加価値製品の販売増加により売上総利益率も1.3ポイント上昇、人材投資等の販管費増加を吸収し、営業利益は22.7%増益
- 2025年7-9月期も、オフィス向けの好調等により売上高は5.2%増収、営業利益は18.6%増益と1Qに続き好調継続

単位：百万円	2024年3月期2Q		2025年3月期2Q		2026年3月期2Q期初予想 (25年4月時点)		2026年3月期2Q実績		前年同期比 増減率	予想比 増減率
売 上 高	19,691	100%	20,117	100%	21,000	100%	21,107	100%	4.9%	0.5%
売 上 総 利 益	6,550	33.3%	6,820	33.9%	7,110	33.9%	7,437	35.2%	9.0%	4.6%
営 業 利 益	1,300	6.6%	971	4.8%	1,050	5.0%	1,192	5.6%	22.7%	13.5%
経 常 利 益	1,373	7.0%	1,048	5.2%	1,100	5.2%	1,220	5.8%	16.4%	10.9%
当 期 純 利 益	950	4.8%	738	3.7%	750	3.6%	817	3.9%	10.8%	9.0%
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	51円09銭*		39円56銭*		41円20銭		46円51銭		17.6%	12.9%
1 株 当 た り 配 当 金	27円50銭*		30円00銭*		65円00銭		65円00銭		116.7%	—

* 2024年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割。1株当たり当期純利益と1株当たり配当金の算出は分割後の株数で遡及修正

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

9

今期の半期はもう終わりました、決算についてお話をします。

売上高ですが、211億700万円、前期比で4.9%の増、売上総利益は74億3700万円、前期比で9.0%の増、営業利益は11億9200万円、前期比で22.7%増、経常利益は12億2000万円、前期比で16.4%増、当期純利益は8億1700万円、前期比で10.8%増、1株当たりの当期純利益は46円51銭、1株当たりの配当金は65円としています。

オフィス向けの製品が大変好調で軸となりながらも、学校や文化施設も増収となっておりまして、期初の予想を上回るペースで推移しています。

販管費が増えておりますが、高付加価値製品の販売増加を中心に単価を上げることができまして、営業利益は22.7%増ということで、好調に推移しています。

品目別売上高

小松ウオール

- 可動間仕切やトイレブースはオフィス向けが好調、ロー間仕切も回復、一方で移動間仕切は宴会場など宿泊施設向けが減少
- 受注残は全品目増加、学校、文化施設向けが好調、宿泊施設向けも回復。品目別では、固定間仕切、移動間仕切は10%強の増加

単位：百万円	2025年3月期2Q	2026年3月期2Q					
	実績	実績	前年同期比 増減率	受注高	前年同期比 増減率	受注残高	前年同期比 増減率
売上高	20,117	21,107	4.9%	25,185	3.0%	22,975	9.3%
└ 可動間仕切	8,837	9,901	12.0%	10,853	1.9%	6,235	6.3%
└ 固定間仕切	4,358	4,270	△2.0%	5,301	△0.4%	6,646	10.9%
└ トイレブース	3,164	3,409	7.7%	4,768	7.3%	4,803	8.7%
└ 移動間仕切	2,888	2,649	△8.3%	3,265	3.0%	4,780	10.2%
└ ロー間仕切	261	335	28.1%	383	29.4%	134	31.2%
└ その他	606	541	△10.7%	613	6.2%	374	20.9%

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

10

品目別の売上高についてお話をさせていただきます。

まず、実績のところですが、オフィス向けの可動間仕切が大変好調でして、可動間仕切全体では前期比で12.0%増となっております。

トイレブースも好調でして、前期比で7.7%の増、全体では4.9%の増となっています。

受注高については、全体で前期比3.0%増、受注残高についても、前期比で全体で9.3%の増となっています。

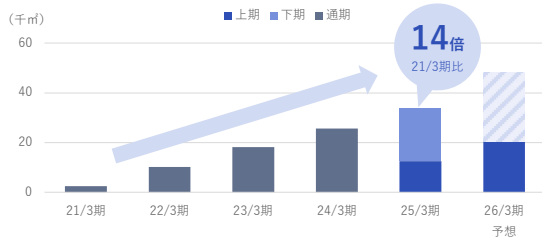
受注ベースにつきましては、オフィスに加えて学校、文化施設、宿泊施設向けも好調に推移しておりまして、全体では大変良い流れになっていると捉えています。

意匠性を高めた高付加価値製品が伸長

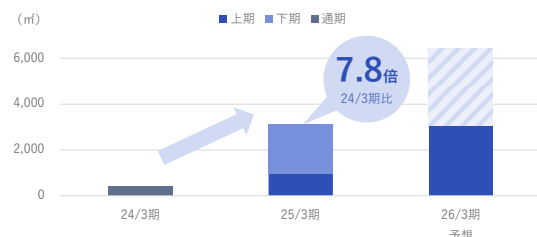
小松ウオール

- 2019年9月発売の意匠性を高めた連続ダブルガラス間仕切の「マイティスマートレール」の出荷量は26年3月期2Qも前年同期比1.6倍に増加
- 2023年10月発売のCopper Seriesも好調継続、26年3月期2Qも前年同期比3.2倍

マイティスマートレール（2019年発売）



Copper Series（2023年発売）



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

11

先ほどから、オフィス向けの製品が好調ですというお話をさせていただいておりますけれども、その要因となる施策を2つご紹介させていただきます。

1つ目、高付加価値製品を挙げます。これまで高付加価値製品を開発、様々なものを開発してきましたが、代表的なものを2つご紹介させていただきます。

向かって左ですが、「マイティスマートレール」という製品になります。ダブルガラスのガラスパーティションで、高遮音・高意匠という内容のものになります。年間通して販売した21年3月期と前期を比較しますと、出荷数量が14倍に伸びておりまして、近年では最も売れた製品となっています。今期に入っても大変良いペースで出荷をしております、まだ半期ではありますけれども、前期と比較して1.6倍に出荷数量を伸ばすことができます。

向かって右側ですけれども、「Copper Series」という製品になります。特殊な塗料をメーカーと一緒に開発しまして、見る角度ですとか、光の当たり方によって意匠が異なるユニークな内容となっています。当社の標準的なラインナップの中で、高意匠を求められた際にご提案できる内容となっています。

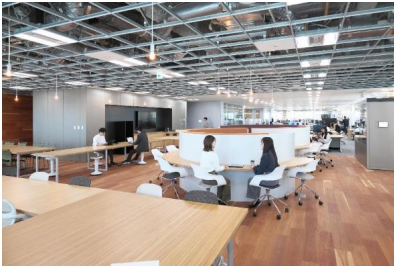
24年3月期に発売しましたが、25年3月期にかけて出荷数量が7.8倍ということで大変好調なスタートを切っておりますが、今期さらに伸びてまして、まだ半期ではあります、前期と比較して3.2倍のペースで出荷をすることができます。もっと拡販に力を入れまして、製品を出していきたいと考えています。

大型ショールーム開設・増床

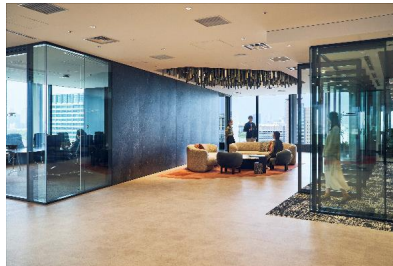
小松ウオール

- 2019年から大型ショールームを強化し、大阪、東京、名古屋にオフィス機能と一体化したショールームを順次開設
- デザイン事務所や依頼企業が当社製品に直接触れることで、デザイン性に優れた高付加価値製品の採用が増加

2019/11
大阪
(2024/10移転リニューアル)



2021/1
東京
(2024/5リニューアル)



2023/7
名古屋
(2025/6リニューアル)



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

12

オフィス向けの製品好調の要因として、2つ目の施策をご紹介します。

大型ショールームの開設と増床を挙げます。

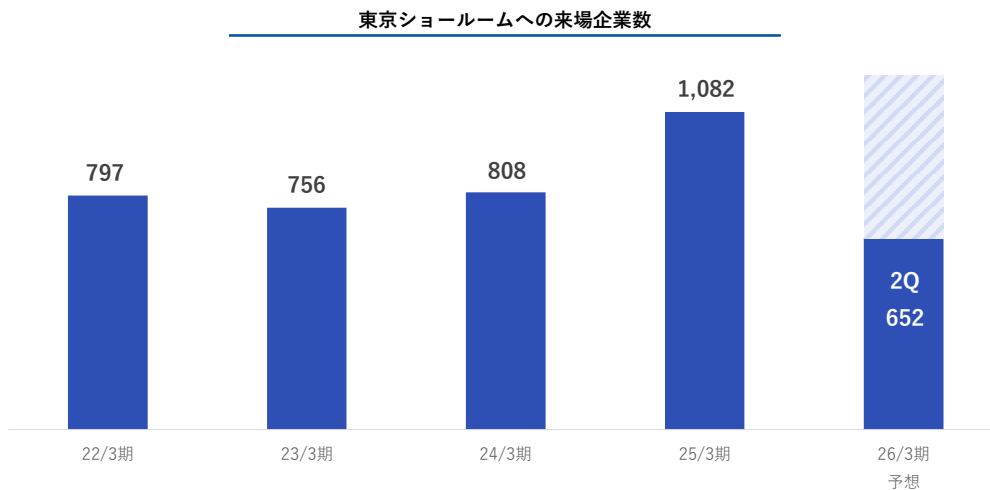
2019年11月の大阪をはじめとして、東京、名古屋と、大型のショールームを開発してきました。それ以前はですね、お客様とは図面のやりとりということが主だったんですけれども、こちらの大型ショールームを構えることで、実際にお客様に当社製品の遮音性、意匠性、操作性といったものを体感・体験いただくことで、当社の製品の受注の確率を高めることができました。この施策に大変手応えを感じてまして、東京、大阪、名古屋と、2024年、2025年にかけて大規模なリニューアルを行っています。

その中でも東京のショールームについて、少し追加のお話をさせていただきます。

東京ショールームの来場企業数

小松ウオール

■ 東京ショールームは2021年5月にオープン、2024年5月のリニューアルをきっかけとして25年3月期は34%増の1,082社が来社
「建築セミナー」を始めた26年3月期2Qも前年同期比13%増と堅調、今後も当社製品に触れて貰う機会を増やし販売増につなげる



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

13

こちらは東京のショールームの来場企業数の近年の推移を表したグラフになりますけれども、よく「どのくらい来ているんですか？」というご質問をいただくので、ご紹介させていただきます。

オープンした22年3月期からの3年間においては、約800社ほど、年間で来社いただいています。25年3月期には大規模なリニューアルを行ったということもあって、1,082社、34%、その前の期と比較して増えてまして、伸ばすことができております。

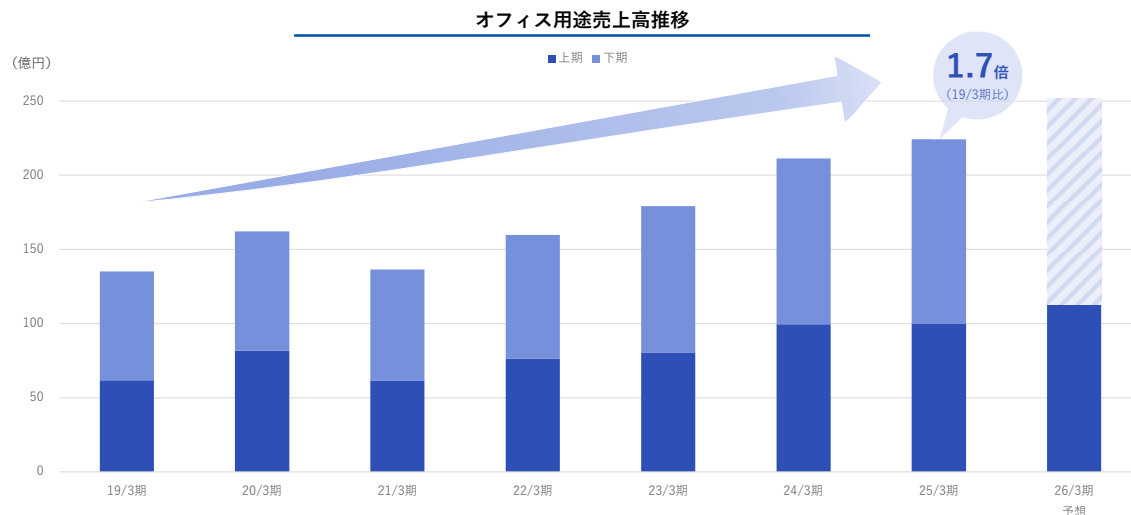
今期ですけれども、建築セミナーといったものを主催しています。設計士の方に向けてですね、著名建築家やディベロッパー、ワークショップを主催する方々をお呼びして講演いただくことで、設計士の方に対して、研鑽やコミュニケーションの場として提供している内容となっています。その効果もありまして、今期はまだ半期しか経ってないですけれども、13%増の652社ご来社いただいています。

今後も伸ばしていけるように、色んなイベントを考えて、実行していきたいと考えています。

オフィス用途売上高の推移

小松ウオール

- オフィス移転工事の需要を取り込むため、デザイン事務所や事務器メーカー専門の営業拠点も開設し、オフィス向けを強化
- 2025年3月期のオフィス用途売上高は2019年3月期比で1.7倍への増加、26年3月期2Qも前年同期比13%増加と好調に推移



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

14

以上ですね、オフィス用途の製品が好調な要因として、2つの施策をご紹介させていただきましたけれども、改めて効果についてお話させていただきます。

こちら当社のオフィス用途の売上高の推移ですね。2019年3月期からのものになりますが、ショールームオープンである2019年3月期から前期の25年3月期を比較しますと、1.7倍に伸ばすことができています。同じ時期の会社全体での売上の伸びは約1.3倍ですので、この施策の効果というものが大変数字にも表れていまして、当社の業績を牽引していると考えています。

2026年3月期第2四半期 決算概要説明

2026年3月期 業績予想

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

15

2026年3月期業績予想についてお話をさせていただきます。

業績予想

小松ウオール

- 通期は期初予想継続。上期は計画を上回ったが、可動間仕切などフル生産が続いており、出荷がずれ込むリスクなどを考慮した慎重な予想
- オフィスのリニューアル需要が引き続き好調で、可動間仕切に加え、トイレブースも増収に貢献。売上高は4.2%増収、増収効果や高付加価値製品の販売増加による売上総利益率上昇により、営業利益は11.7%増益を予想
- 期初に配当方針を純資産配当率（DOE）3%から6%水準に変更、2026年3月期の配当も期初計画を継続し、前期比倍増の130円を予想

単位：百万円			2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期 通期予想		前期比 増減率
売	上	高	43,551	100%	44,616	100%	46,500	100%	4.2%
営	業	利 益	3,640	8.4%	3,635	8.1%	4,060	8.7%	11.7%
経	常	利 益	3,732	8.6%	3,756	8.4%	4,130	8.9%	10.0%
当	期	純 利 益	2,775	6.4%	2,650	5.9%	2,930	6.3%	10.5%
1 当	株 期	当 純 利 益	149円04銭*		145円64銭*		160円97銭		10.5%
1 配	株 当	当 た り 金	62円50銭*		65円00銭*		130円00銭		100.0%

* 2024年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割。1株当たり当期純利益と1株当たり配当金の算出は分割後の株数で週及修正

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

16

今期の通期の予想ですけれども、売上高で465億円、営業利益で40億6000万円、経常利益で41億3000万円、当期純利益で29億3000万円、1株当たりの当期純利益は160円97銭、1株当たりの配当金は130円としております。

半期終わりまして、期初の予想を上回るペースで推移しておりますけれども、可動間仕切がフル生産という状況が続いていることに加えて、建築現場、個々にですね、遅れると言いますか、当社の出荷がずれるということが度々起こっておりますので、期初の予想を継続させていただいております。

とはいえ、オフィスのリニューアル需要というものは引き続き強いですし、可動間仕切やトイレブースといったものを中心に増収に繋がっているという状況ですので、期末に良い形で終われるように取り組んでいきたいと考えています。

配当方針DOE3%から6%水準に変更した期ということで、今期は1株あたり130円の配当金を予定しています。

第38回「日経ニューオフィス賞」受賞

小松ウオール

■ 「101 TOKYO SHOWROOM OFFICE」が日経ニューオフィス賞において【ニューオフィス推進賞 クリエイティブ・オフィス賞】を受賞

■ 来訪者が実際のオフィス風景を通じて製品の使い方や効果を体感できる。プライバシーを守りつつ、開かれた空間での働き方が実践されており、社員と顧客が同じ空間で時間を共有することで、双方向のコミュニケーションが活性化されることが評価された



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

17

最近の当社のトピックをご紹介します。

日経ニューオフィスの「ニューオフィス推進賞 クリエイティブ・オフィス賞」を、当社の東京ショールームが受賞することができました。

先ほど東京ショールームの話もご紹介もさせていただいておりますけれども、この表彰というのが、一番上に大賞があって、その次に「クリエイティブ・オフィス賞」というものが3社選ばれるんですけれども、その1社に当社が選ばれたということで、大変栄誉に感じております。私も、審査会のプレゼンテーションや、9月にあった表彰式に参加させていただきましたが、業界に身を置く立場として、近しいお客様ですとか、業界の方にも「よく獲れたね」というようなお声をいただきまして、大変うれしく、ありがたい機会でした。

「何で獲れたのか」というところなんですけれども、要因として、ワークショップを行っておりまして、当社のこれまでのお客様と行ってきたものづくりですとか、本社や東京、一丸となってもものづくりをするということをワークショップでそういう意見が出たので、それを体現したオフィスとなっておりまして、デザインも含めて審査員の方に好評いただけたと思っております。

集客どんどん伸ばすことができますので、これを機に、さらに個別にですね、見せて欲しいというような声をいただいたりしておりますので、ますます集客に力を入れて、当社の良さが伝わる空間として有効活用していきたいと思っています。

大型移動間仕切

小松ウオール

- 他社は大型の移動間仕切（高さが8～10m）を1枚では製造できず、当社が強みを持つ製品
- 大型の移動間仕切をホテルの宴会場等の内装用だけでなく、高強度が必要なビルの外装用にも活用（写真はブルーフロント芝浦 28階の外壁）



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

18

トピックの2つ目ですけれども、外部の大型移動間仕切を挙げます。

こちらはブルーフロント芝浦といって、今年の9月にオープンしたばかりのビルなんですけれども、そちらのビルの28階という高層階に外と中を仕切るこのガラスの建具ですね、当社の製品を納入することができました。これまで1階の部分においては、こういった外部のものというのは実績があったんですけれども、今回28階という高層階でするので、従来にない試作ですとか試験というものを繰り返して行いまして、納入できるスペックを満たしたということで、実績として残すことができました。

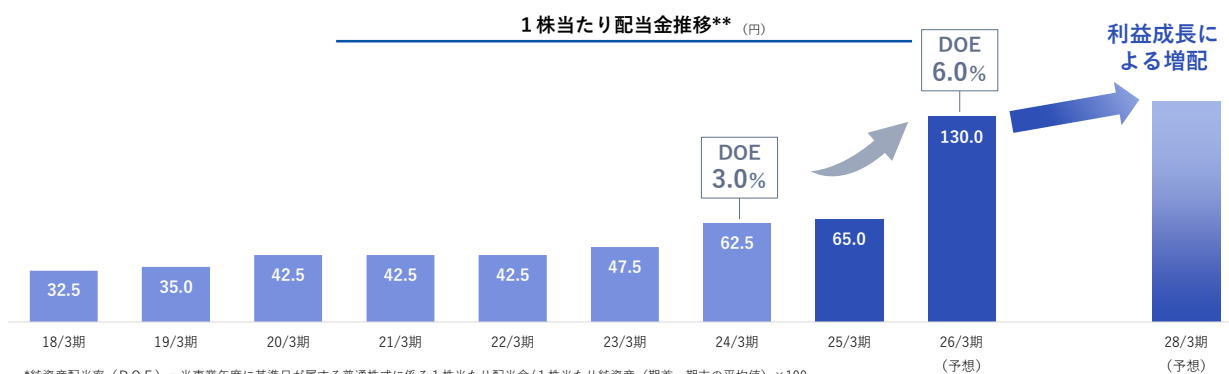
当社にしかない製品、当社にしかない開放的な空間づくりに貢献する製品ですので、まだまだですね、「知っている人は知っている」という認知度ではないかと自覚しています。もっとですね、PRに力を入れて、小松ウオールにこういった製品があって、こういう空間をつくれる製品があるっていうのを、認知を上げまして、もっとこういった製品を世に出していきたいと考えています。

株主還元方針

小松ウオール

- 2026年3月期から株主還元方針を変更し、純資産配当率（DOE）6%を目安とした配当へ引き上げ。なお、23年4月にはDOE3.0%下限に変更
- 上記方針に基づき、2026年3月期は前期比2倍の130円への増配を計画

純資産配当率*（DOE）6%を目安とした配当を実施
持続的な成長も実現し、配当水準の安定的向上を目指す



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

19

株主還元方針についてお話をさせていただきます。

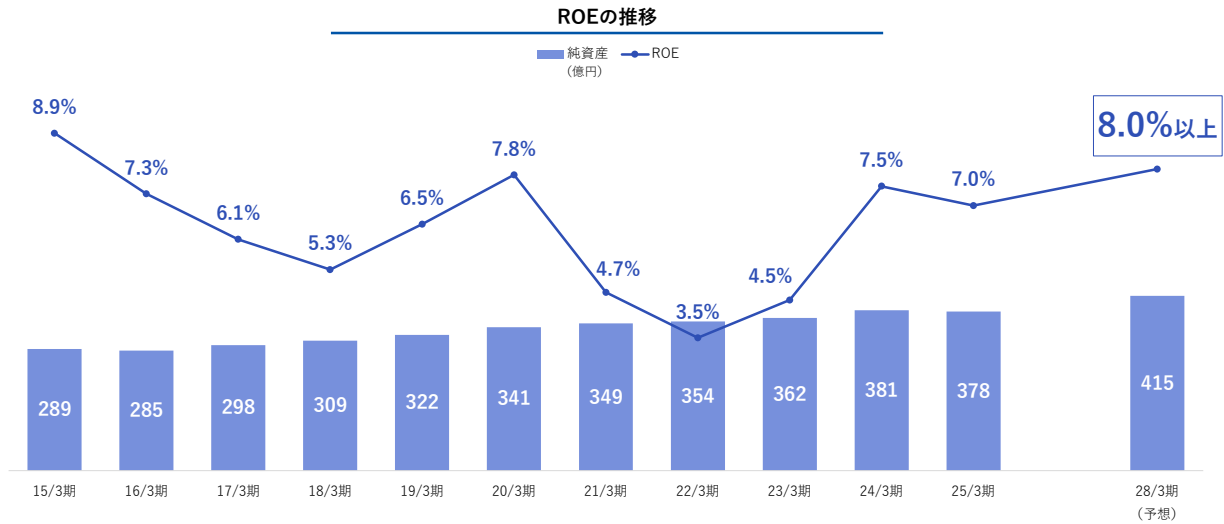
繰り返しですが、今期はDOE6%という配当方針を掲げています。1株あたりの配当金は130円としています。

今後ですけれども、利益成長と共に着実な増配ができるように取り組んでいきたいと考えています。

ROEの推移

小松ウオール

■ 売上高当期純利益率の改善と株主還元強化により、中計最終年度の2028年3月期にはROEを8%以上に引き上げる



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

20

最後に、ROEについて言及させていただきます。

株主還元強化、配当ですね、株主還元強化をしております。純資産が不要に増えないということで、今後ですけれども、施策の実行等効果によって、利益成長することで、ROE8.0%以上にできるように取り組んでいきたいと考えております。

説明としては以上になります。

2026年3月期第2四半期 決算概要説明

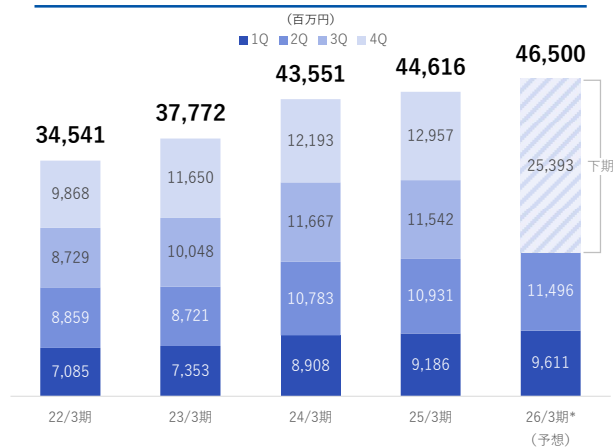
Appendix

四半期業績推移

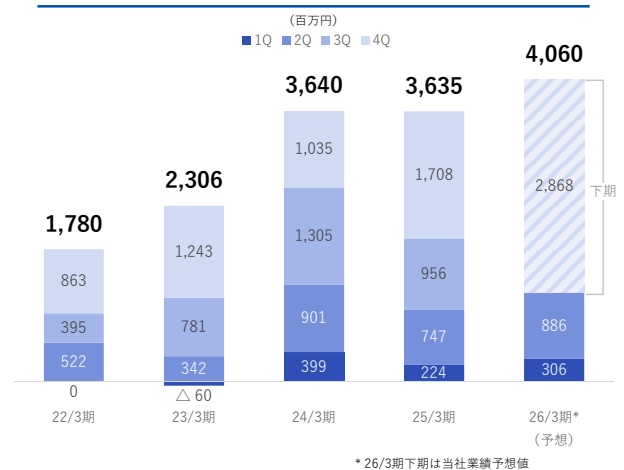
小松ウオール

- 2026年3月期7-9月の売上高はオフィス向け的好調などから5.2%増収、増収や高付加価値製品の増加等により営業利益は18.6%増益
- 2026年3月期もオフィス向け的好調が続くことを主因に増収を予想、売上総利益率の上昇により人件費の増加等を吸収し営業増益を予想

四半期売上高



四半期営業利益

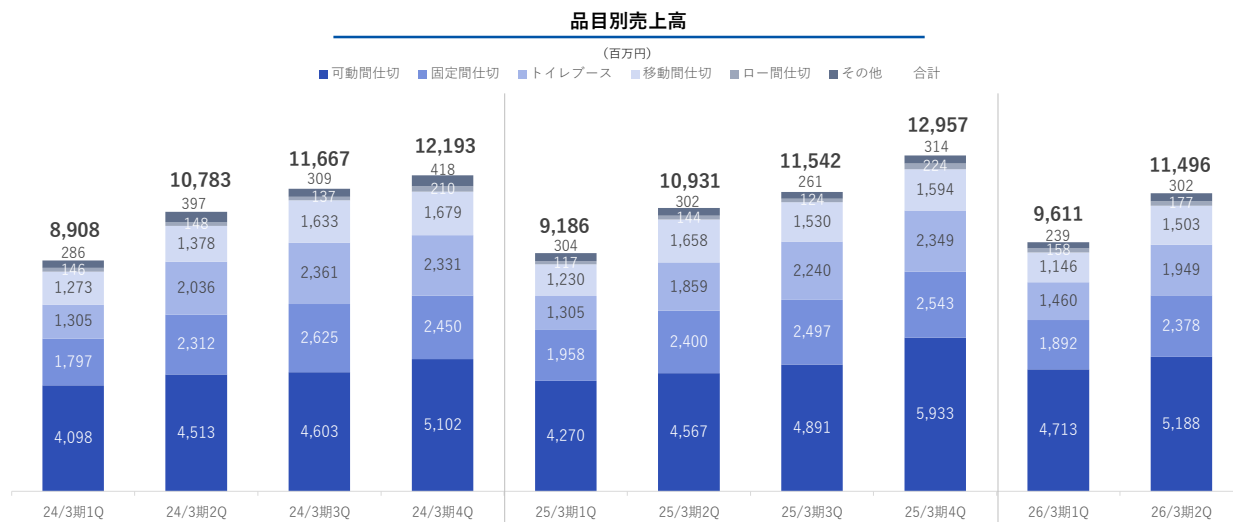


©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

四半期品目別売上高推移

小松ウオール

■ 2026年3月期7-9月はオフィス向け中心に引き続き可動間仕切が好調に推移、トイレブース、ロー間仕切も堅調



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

23

新製品：IDO（イド）

小松ウオール

- 4人から6人程度の複数人での使用を想定した床置き型のワークブースを発売
- 設置場所を選ばないシンプルな箱型形状で、集中したい時にも、アイデアを交わしたい時にも活用できるワークブース
- 遮音性を重視した高付加価値製品のAgoraに加えて、普及価格帯のIDOを発売することで製品ラインナップを強化



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

24

貸借対照表

小松ウール

■ 新工場建設に向けた投資により有形固定資産が増加、一方で現預金や売上債権等が減少し、総資産は2025年3月期末と水準ROE上昇に向けて、増配等により純資産の増加を約3億円に抑制したが、自己資本比率は81.8%と引き続き高い財務安全性を維持

単位：百万円	2024年3月期末	2025年3月期末	2026年3月期2Q末	前期末差
流動資産	32,539	31,322	27,845	△3,477
現預金	17,640	16,714	15,108	△1,606
売上債権・契約資産	13,615	13,231	11,155	△2,078
棚卸資産	1,123	1,117	1,337	220
固定資産	14,915	15,433	18,676	3,243
有形固定資産	11,767	12,260	15,462	3,202
無形固定資産	385	415	436	21
投資その他の資産	2,763	2,757	2,777	20
総資産	47,455	46,756	46,522	△234
負債	9,388	8,965	8,444	△521
買掛金	2,350	2,323	2,076	△247
有利子負債	0	0	0	0
純資産	38,067	37,790	38,077	287
負債純資産合計	47,455	46,756	46,522	△234

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

25

キャッシュ・フロー計算書

小松ウオール

- 利益計上や売上債権の減少から営業CFは25億円のプラスとなった、一方で新工場稼働に伴う設備投資により投資CFは25億円のマイナス
- 配当金を6億円支払ったものの、期末現預金は130億円と前年同期並みを維持

単位：百万円	2024年3月期2Q	2025年3月期2Q	2026年3月期2Q	前年同期差
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,424	1,677	2,576	899
税引前当期純利益	1,373	1,100	1,220	120
減価償却費	522	564	586	22
売上債権の増減額（△は増加）	1,633	2,388	2,079	△309
棚卸資産の増減額（△は増加）	△46	△90	△219	△129
仕入債務の増減額（△は減少）	△291	△392	△247	145
投資活動によるキャッシュ・フロー	△637	△1,156	△2,563	△1,407
有形固定資産の取得による支出	△611	△639	△3,475	△2,836
定期預金の預入・払戻による支出入	0	△500	1,000	1,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△528	△669	△632	37
配当金の支払額	△520	△661	△625	36
現金及び現金同等物の期末残高	12,734	13,373	13,029	△344
フリーキャッシュ・フロー	1,787	521	13	△508

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

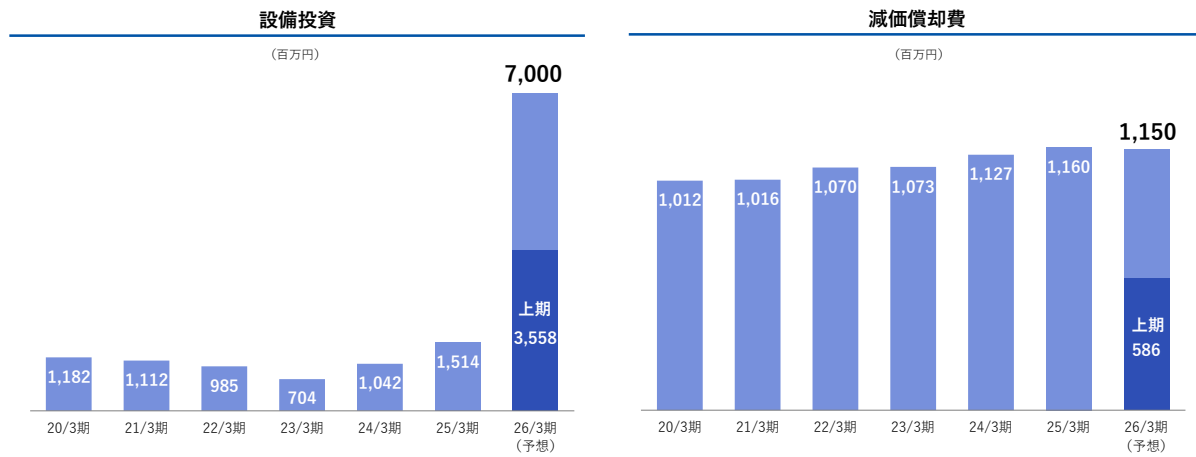
26

設備投資、減価償却費

小松ウオール

■ 2026年3月期は加賀工場2号棟建設、名古屋ショールームへの投資等で70億円の設備投資を計画

■ 上期は35億円の設備投資を実施。2号棟着工に伴う投資に25億円、既存工場の機械設備等に4億円、名古屋ショールーム関連で3億円等



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

27

設備投資 加賀工場2号棟（仮称）

小松ウール

■ 2024年4月に加賀工場2号棟（新棟）の建設を公表、第三工場の可動間仕切の一部の生産ラインを移管、オフィス向けなどで需要が大きく伸びている可動間仕切の生産能力を増強。新棟は土地造成を終え、2025年5月から建設開始、2027年5月に操業開始予定

■ 中期経営計画期間中（2024年3月期～28年3月期）の設備投資は150億円以上を計画

名	称	加賀工場2号棟（仮称）
---	---	-------------

主	な	事	業	可動間仕切の製造 研究開発
---	---	---	---	------------------

投	資	金	額	約95億円
---	---	---	---	-------

建	築	面	積	約19,000㎡
---	---	---	---	----------

延	床	面	積	約19,700㎡
---	---	---	---	----------

建	設	開	始	年	月	2025年5月
---	---	---	---	---	---	---------

操	業	開	始	年	月	2027年5月予定
---	---	---	---	---	---	-----------



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

28

中期経営計画目標の上方修正

小松ウール

■ 中期経営計画「NEXT VISION 2028」は想定を上回るペースで進捗、計画目標を上方修正（2025年3月期決算時）

	変更前		変更後
ROE	5%～8%	≫	8%以上
売上高成長率	3%～6%	≫	4%～6%
営業利益率	7%～10%	≫	8%～10%

成長率と利益率の上昇のための追加施策

戦略検討チームの設立

- 製造、営業の主力メンバーで構成
- オフィスのリニューアル需要など成長領域での課題を抽出し、製販両面から改善策を検討
- 成長戦略の立案と、そのために不足するビジネスについて、M&Aも含めた改善策を検討

投資委員会を設置

- 関連役員等で構成し、ROICやIRRを用いた投資判断の徹底
- 加賀工場2号棟など大型投資案件で、収益性を踏まえた投資の可否を検討
- M&Aについても、収益性の観点から可否を検討

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

29

企業価値向上に向けた具体的な取り組み

小松ウオール

- 中長期的に成長戦略を立案・実行し、利益成長を図る
短期的にはDOE6%を目安として株主還元を強化するとともに、資本コスト低減のためIR活動を強化するなどの施策を実行

売上高 当期純利益率の改善

資本効率性重視

投資委員会の設立、ROIC、IRRによる投資判断の徹底

成長戦略

戦略検討チームを設立し、M&Aを含めた成長戦略の立案と実行による売上高成長率と利益率の引き上げ

財務レバレッジの 改善

株主還元強化

DOE6%を目安に配当を実施

その他 (資本コスト低減策等)

IRの強化

投資家との対話、エンゲージメントの拡充による株価ボラティリティの低減
中計の着実な実行とIR強化による投資家の期待成長率の引き上げ

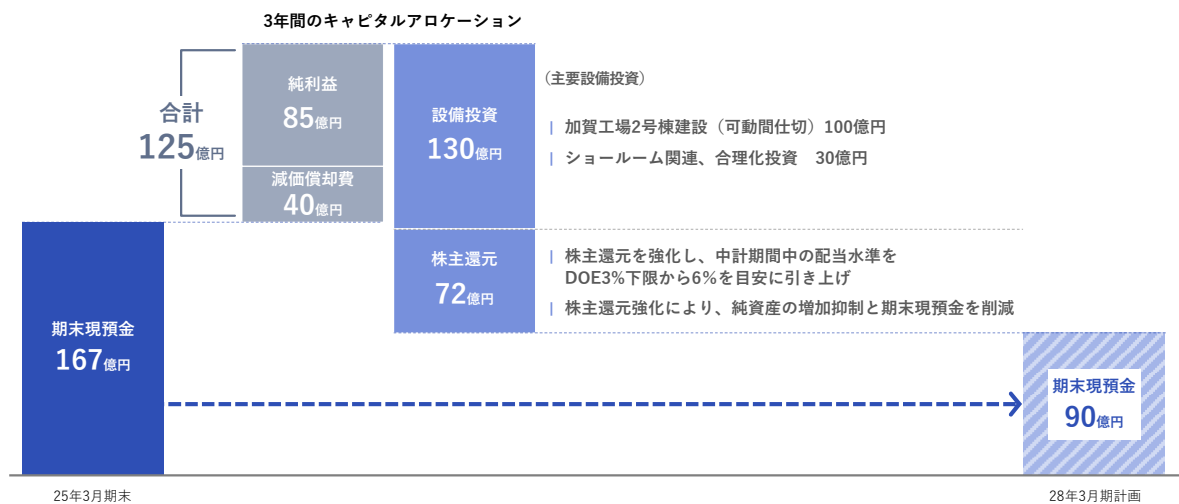
株価を意識した 経営の促進

役員報酬制度改定の検討開始
従業員持株制度の拡充（奨励金の引き上げ）

キャピタルアロケーション

小松ウオール

■ 今後のキャッシュインと現預金を使い、成長投資と株主還元を強化、2028年3月末の現預金は90億円（月商の2ヶ月強）の水準に削減



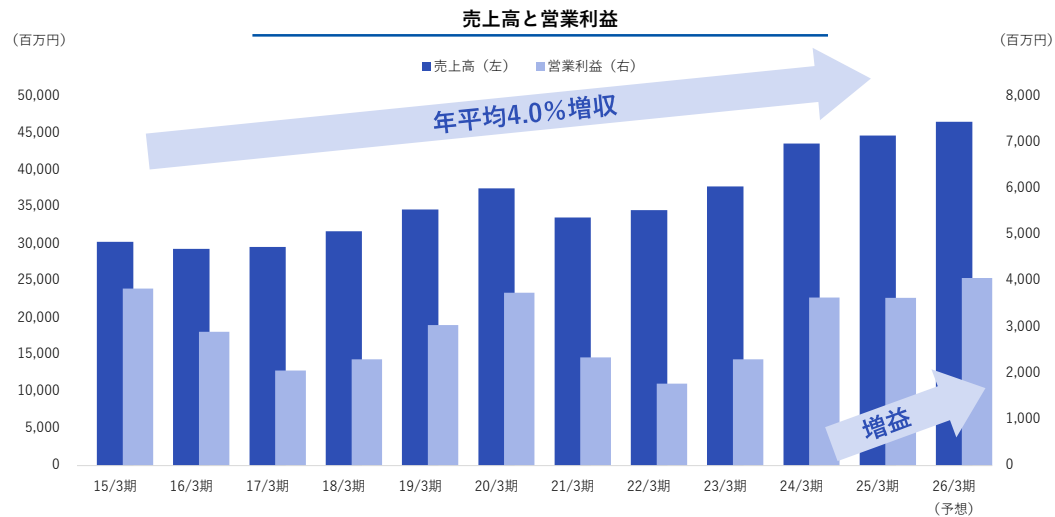
©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

31

業績推移

小松ウオール

- 間仕切需要拡大に伴い、売上高は2025年3月期まで過去10年間で年平均4.0%増収
- 2025年3月期はオフィス向けなどが好調で増収、売上総利益も増益となったが、物流費等の販管費が増加し、営業利益は前期並み



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

32

工場

小松ウール

■ 石川県小松市、加賀市の4工場で間仕切・トイレブース・ドアを製造

第三工場

可動間仕切の製造



加賀工場

ドアの製造



第一工場

移動間仕切の製造



本社・第二工場

本社及び
トイレブースの製造



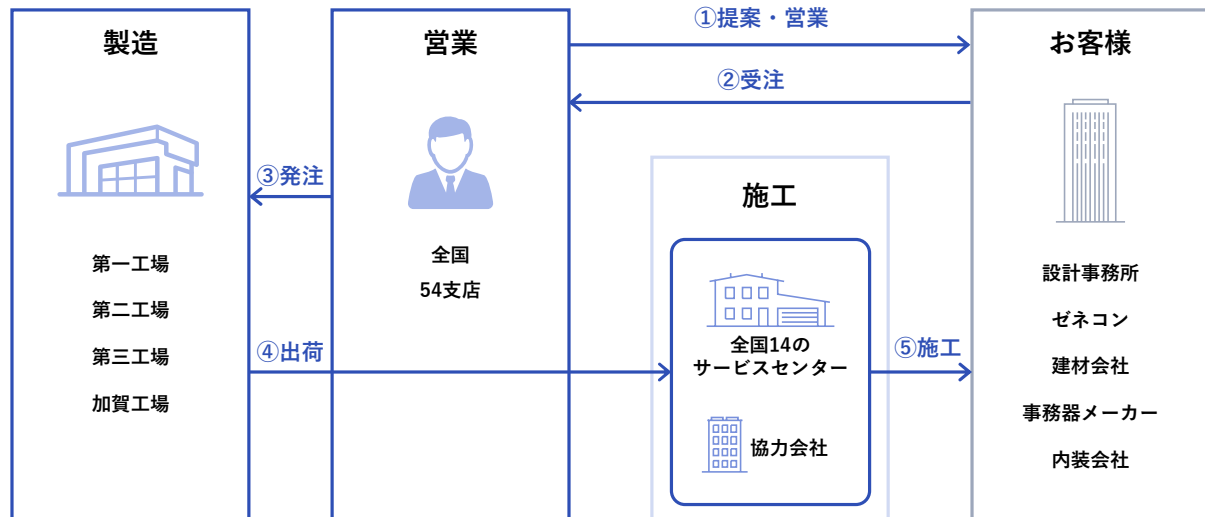
©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

33

ビジネスの流れ

小松ウオール

■ 製造から施工まで当社で対応、営業は全国54支店、製造は4工場



©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

34

営業網

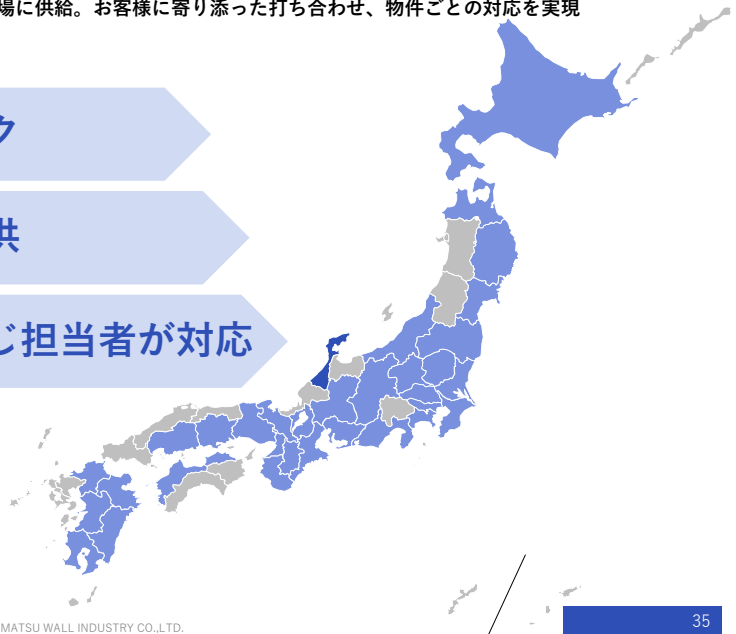
小松ウオール

■ 全国に54拠点の支店を配置、全国に安定した納期、品質で市場に供給。お客様に寄り添った打ち合わせ、物件ごとの対応を実現

■ 地域での強いネットワーク

■ オーダーメイド品の提供

■ 受注から施工まで同じ担当者に対応



*青色の都道府県には支店を設置

©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

35

オーダーメイド対応へのこだわり

小松ウール

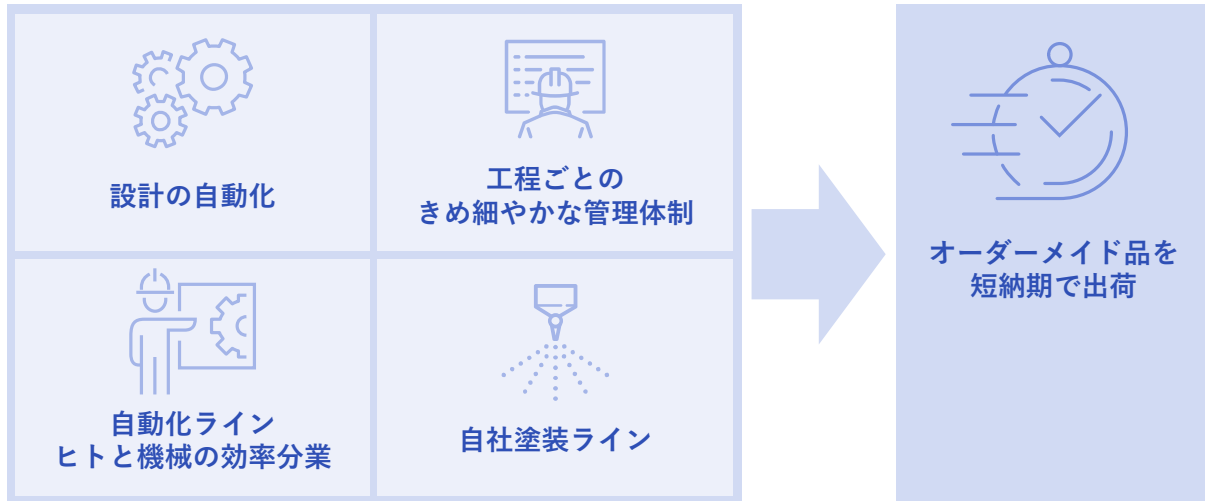
■ 自社開発品の提案のみならず、設計事務所などからの要望に沿った製品も開発・設計



オーダーメイドを短納期で成し遂げる生産ライン

小松ウール

■ 小ロット多品種生産ができる仕組みを作り、オーダーメイド品を効率的に生産。受注から出荷まで3～4週間で対応


































©KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD.

37

サステナビリティ推進

■ 特定したマテリアリティに基づき、マテリアリティ経営を推進する

	マテリアリティ	テーマ	関連するSDGs
E	持続可能な循環型社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラルに向けた取り組み 再生可能エネルギーの利用 廃棄物削減と資源の有効活用 	   
	製品を通じた気候変動対応への貢献	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ製品対応に向けた製品開発・改良 	    
S	人材開発	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成の強化 	  
	Well-being	<ul style="list-style-type: none"> エンゲージメントの向上 働きがいの向上、ワークライフバランス、健康推進 人権・多様性の尊重と多様な人材の活躍 (ダイバシティ・エクイティ&インクルージョン) 	   
	DX推進と生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> デジタルデータの活用と社内業務の協働によるビジネスモデルの構築 	 
	ステークホルダーエンゲージメント	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップの発揮 サプライヤーとの共存共栄 顧客満足・信頼の追求 	    
G	ガバナンスの更なる改革	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスの徹底 組織体制の全体最適化 	   
	リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策、リスク管理体制の強化 	   



小松ウォール工業株式会社 | 東証プライム 7949

お問合せ先

小松ウォール工業株式会社
社長室

TEL 0761-21-3131(代表)

https://www.komatsuwall.co.jp/form/form.php?form_id=201

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。